

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000705), 法人名 (有限会社 グループホーム花), 事業所名 (グループホーム花 2階), 所在地 (小樽市 最上 2丁目19番9号), 自己評価作成日 (令和2年2月29日), 評価結果市町村受理日 (令和2年6月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Empty box for business-specific points.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigvosvoCd=0172000705-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年5月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty box for external evaluation points.

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 cover various service outcomes.

## (2階) 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には必ず理念や職員での取り決め目標などを伝え、フロアーリビングの記録等で座る位置から目に付く所に掲示する事で共有と実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や中学校との交流や、花で開催しているフリーマーケットは欠かさず行っている。また近隣のお寺の行事や町内会館での予防体操等に参加したりして地域との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	暖かい季節には近所を散歩したり、町内会の行事に利用者様が参加することで、職員の対応等見て頂いている。また直接や電話での相談があった時には対応をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の入居者や職員の状況や防災等の取組であったり実施指導報告等を議題として質疑応答にて色々な意見を頂いたりしてサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所での集団指導に参加したり、介護保険課、生活支援課、保健所などに相談や業務報告などで直接出向いたり、電話して助言やアドバイスなどを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠については常に開いているが、夜間に関しては外部からの侵入を防ぐためやむを得ず施錠している。又、3か月に1度で身体拘束防止適正化委員会を開催し日頃のケアでスピーチロック等が行われていないか聞き取りを確認するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアの実践にむけ2回の身体拘束等の適正化のための研修をおこなっている。研修で職員は禁止の対象となる具体的な身体的な行為を正しく理解していると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長くいる職員は数年前に学んでいるが、新しい職員は学べていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には、時間をかけて、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分に時間を掛けて説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会用紙に意見や要望を自由に記述できるスペースがあったり、意見箱も設置しているが、活用できていない為、面会時に口頭で現況を伝えたり毎月お手紙と花便りにを通して状況をお伝えしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と職員は個別で面談をし意見要望等に耳を傾けている。又、何かがあるときには都度フロアミーティングを開催し話し合いをして業務の見直し等をおこなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を活用し日常の勤務状態、職員の努力・実績に応じた評価を行い、手当等を支給するなど処遇改善を図り、やりがい・向上心を持って働けるような環境の整備に努めている。又、月2回迄の希望休暇日は極力叶えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人期間は、定期に面せシートを活用して振り返りをして頂きコメントのやり取りをしたりして管理者は日々現場で職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内にて定期的に開催しているケアネット研修会の幹事をさせて頂き、他業種の方等と同業者と交流を図り、勉強会やネットワークづくりなど日頃のサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人との面談は必須であり、ご本人または家族から生活習慣・不安な事・要望等を聞くようにして、ご本人の安心を確保して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるにあたって何度も電話でやり取りや直接来訪して頂く等をして家族から生活歴や現在の状況・状態や不安な事、要望を聞く事で安心して暮らしていける為の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず担当ケアマネやご家族から口頭並びにfax及び電話にて情報収集をして状況を把握するとともに、ご家族に申込書及び基本情報シートを記入して頂き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には自分で出来る事は自分で行って頂き、職員は、出来る事・出来ない事を見極め、本人がホームでの役割をもち協力して共同生活がおくれるよう、支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送にて日々の日常生活状況等を報告して状況の共有をしたり、何かあると直接電話をして相談等をする。出来るだけ行事にも参加して頂けるよう促している。又、本人がご家族に連絡したい時などは橋渡をして家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	掛かりつけ医院・美容室など入居後も変更せず馴染みの関係が途切れないように支援している。又、ご家族に確認の上、友人等が面会や電話がきた場合もゆっくりと過ごしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者同士が日常生活自立度や認知症自立度の差によって気が合う気が合わない等という事もある為、しっかり見極めて隣同士の席を用意したり職員が間に入るなど配慮して孤立しないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族や転居先または病院から連絡があった場合など、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて入居されていた時の情報を提供するなどして本人や家族のフォロー・相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者様との会話から希望、意向などを聞き取りしてケアプランに反映したり要望に応じて物品購入や外出支援等を行っている。困難な場合には、面会時等にご家族様から話を聞くなど意向を汲むようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ずご家族及び本人から話を聞いたり、又は担当ケアマネから頂いた情報等にて暮らし方、生活歴、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。入居されてからも本人との会話にて情報を得るなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的に、毎日、バイタルチェック等や、会話および普段の様子観察を記録に残して一人ひとりの健康状態を把握している。そして申し送りと連絡ノートで職員間の情報共有を図り、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りやミーティング等にて計画作成担当者や看護師、介護師を含め職員間で日常の状況や入居者の様子または会話であったり日々、情報共有並びにモニタリングなどを行い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに日々のケアの実践結果や気づきの様子を個別記録やモニタリングを行い、ちょっとした変化等に注意を払い職員間での連絡を密に情報共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人的余裕が無い時もあり、なかなか難しい時もあるが、出来る時には近場のドラッグストアやスーパー等に行き物に行ったり散歩をしたり初詣に行ったりと外出支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の外出支援行事や地域の保育園・中学校やお寺との地域交流支援を図るなどして、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。また近隣を散歩する等して、出来る限り地域で馴染みの関係を図れるよう、近隣の方と接触している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人または家族の希望通り納得の得た病院へ受診している。又、なるべく職員または看護師が同行し、医師に日常の様子など適切に報告をして良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、24時間オンコール体制で何かあればかけ付けて頂いたりかと緊急対応をしてくれている。また日常的に朝の申し送りに参加して情報共有をしながら利用者に適切な支援が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・看護師・医療連携室と連絡を密にとりあい様子観察に行くなどして状態を把握するよう努めている。又、相談・助言をいただくなど退院時は安心してホームで生活ができるよう病院関係者と関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「看取り支援は行わない事」と、「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し同意を得ている。実際に重度化し主治医が当ホームでの生活が困難と判断した場合には入院または他施設へ転居出来るように外部と連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練とセットで、消防隊員に急変や事故発生時に備えて、救命救急講習研修を行って頂き、救命に必要な応急手当方法などを学んだ。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は必ず、日中・夜間を想定した避難消防訓練を実施している。全ての訓練時は消防署職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしている。また今年度は地震等での停電断水の訓練が出来なかった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーを損ねない言葉かけの際には、本人の反応能力に応じて言葉使い口調や態度に気をつけて接遇マナーを守って対応をするよう日々職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず小さな事でも本人の意思を尊重して、自己決定できるよう努めている。又、職員が本人の言葉や表情、動きから本人の意思をくみ取るようにして代弁するなど働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で業務を優先しないように一人ひとりのペースを大切に気分や体調に配慮し、希望にそった支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れたお好きな服を選んで頂き自由に着用しているが概ね半分の方は、職員で用意している。状況に応じて、季節や天候などを考慮して職員がアドバイスをするなど身だしなみに気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	概ね食事作りは職員がしているが利用者の好みを聴くなどして提供できるよう努めている。可能な時には入居者の方と一緒に準備や食事作りを行う事もある。片付けに関しては生活リハビリとして入居者が当番制で行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分トータルや食事摂取量を個別の生活記録にて記録して申し送り事項で共有している。食欲低下や水分がすすまない時には好みの物を用意するなど栄養バランス等を考えて1日を通じて確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて必ず歯磨き及び義歯の定期的な洗浄にて清潔保持・歯周病予防に努めています。又、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケア・在宅医療・歯科衛生士又は先生に相談、アドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら声掛けなどにて自立にむけた誘導支援を行なっている。自立されている方は見守りケアなど自立に向けた支援を個別に行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日一人ひとりの好みに合わせて定期的にヤクルトやヨーグルト、乳酸菌飲料等で腸内環境を良くするなど自然排便を促す取り組みや水分の摂取量管理を行ない便秘の予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回必ず体調の確認やバイタル測定後に本人の希望を確認して入浴して頂いている。又、入浴剤を必ず入れ少しでも温泉気分になれるよう努めている。又、状況に応じて週2回以上にシャワー浴や足浴槽、清拭等を行なう時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や希望に応じて自由に自室にてベッドに横になり休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の変更等は朝の申し送り時や連絡ノートにてお薬手帳やお薬説明書ファイルで用法や用量を確認して頂き職員間で共有している。誤薬防止の為、お薬チェック表を活用したり二人で確認や声掛けして飲み忘れが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を配慮し、生活リハビリも兼ねて毎食後の後片付けを役割分担して行なっている。又、出来る限り外出・外食・季節のレク行事を多く取り入れ気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の人々と協力しながらは、出来ていないが、職員で出来る限り一人ひとりの希望に沿えるよう、季節に合わせた外出先を選び、外出支援をしている。又、全員での外出支援は困難ではあるが、外食・買い物・ドライブ以外にも近所の寺や畑など散歩支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、お金が無くなった等の問題が発生しても責任を負わない事を家族には理解同意していただいたうえで、自己管理が可能な入居者に限り、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自ら家族へ電話できるようにしているが、家族へ電話しようとする人は殆どいない。しかし、家族等側からの電話があった場合は、プライバシーに配慮して気兼ねなく本人の居室にて話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じ心地よく過ごされるようにリビングや廊下の天井や壁に、職員や入居者の手作りで飾り付けをしている。常に生活感や季節感を採り入れて明るく心地よい空間作りに成る様に努力している。又、冬の時期には加湿器等、インフルエンザ予防をしたり各居室に濡れタオルを干すなどして湿度対策をするなど居心地のよい共用空間づくり支援をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席の配置は、気の合った利用者同士であったり、気の合わない人など問題がある為、職員間で話し合い、その時々状況に応じて決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室には馴染みのある使い慣れた家具を持って来て頂いたり壁に写真を貼る事や仏壇等も持ち込む事も可能としていることとお話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の表札やトイレには大きな文字で、わかりやすい様に張り紙をしている。廊下は全て手すりが備え付けられている為、安全に移動する事ができる環境作りに成っている。		